令和7年度上伊那圏域地域自立支援協議会議事録

会議	部会名	第1回こども・若者部会	参加者数	95人	会場	伊那市 福祉まちづくりセンター 3階 1~3研修室
	日時	令和7年6月9日(月) 13:00~15:00				
主 テ ー マ	<p>(1) 今年度の活動計画</p> <p>(2) 質疑・意見交換</p> <p>(3) 研修</p> <p>(4) その他連絡</p>					
	<p>(1) 今年度の活動計画</p> <p>昨年度に引き続き、地域連携や支援体制の強化を図るため、各連絡会で研修会や地域課題の吸い上げを行い、課題の共有や解決を行っていく。</p> <p>(2) 質疑・意見交換</p> <p><部会申込時に挙げた意見・要望について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉サービス利用時の相談窓口や流れについて資料が欲しい。⇒各市町村福祉課へ。 ・グレーゾーンで診断されていない場合、福祉サービスの利用はできないのか。 <p>⇒意見書があれば利用可能。まずは福祉課へ相談を。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サポマネ不在に対する対応先、支援範囲などについて教えてほしい。 <p>⇒後任は決まっていない状況。相談等ある場合は、きりりあでも対応検討していく。</p> <p>(3) 【研修】人間関係や社会性の誤学習を強化させない支援の在り方と本人家族を支える支援</p> <p>講師：日本相談支援専門員協会 顧問</p> <p>◇落ち着きのないクラスに見られる特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指示・注意等々、声が飛び交い頻繁な個別対応。(多動な支援者が刺激物化) ・児の試し行動・アピール行動に忙殺。(クラスの無法地帯) <p>→特性のある子にとっては刺激に振り回され脳が疲弊。(自己コントロール力低下)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無理な集団への誘導により拒否や癩癩が強くなる。(適応障害を太らせる) ・クラスと共有時間が過ごせず加配は追いかける担当。(ますます好き放題) <p>⇒非社会性・反社会性の強化に繋がっていく。</p> <p>◇人間関係・社会性の誤学習を強化させないために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配慮児が適応するクラスの基礎的風景を作る。(刺激を整理し、夢中で活動できるクラス作り) ・信頼関係を築きたくても個人関係の強化はしない。(他児に相対的不満足を与える) ・対人関係において想像力の苦手さがある児にはプライベート距離に踏み込まない。(ボディタッチ等) <p>⇒人間を刺激反応の道具にさせない。支援者として適切な距離感と役割関係に徹する。</p> <p>◇児童福祉サービスの急激な増加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放課後等デイサービス：平成24年52,000人→令和6年370,978人 ・後方支援であった児童福祉サービスが多く地域で全面支援化。(ビジネスモデル化) ・手厚い支援=「人」によるマンツーマン対応を続けると、誰かが側にいなくては持ちこたえられない状況に。 <p>⇒支援者のアセスメント力・プロデュース力が今後、児童福祉サービスに求められる取り組み。</p>					

	<p>◇マンツーマン=手厚い支援ではない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手厚い支援とは、『誰かが側にいなくても自ら意義ある時間を過ごせる力を獲得させる』こと。 ・加配担当は作戦を共に考える伴走者として信頼関係を築く。(叱ったり反省ばかりさせない) ・相談を通じての振る舞いが社会的に是認される経験を積み重ねる。(勝手な振る舞い=問題行動になりやすい) <p>⇒特性を潜在化した状態で強みをのばし、苦手部分は配慮しながら適切な解決策を身に付けていく。</p> <p>◇幼児期の子どもの発達(凸凹)にどう気付いてもらうか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭では気付けない特性に対し、園で配慮したことでよい結果に導けたことを伝え続ける。 ・親としてもどのように配慮したらよいかを理解してもらえようとする。 <p>※医療受診を自己目的としない。(医療受診はあくまでもプロセスの結果)</p> <p>◇今後の「障がいの多様化」と「支援の専門性」</p> <p>本来所属すべき場(社会モデル)で支援できる専門性が求められる。アウトリーチ支援(保育所等訪問支援・就労定着支援・自立生活援助)を通じて社会参加や自己肯定感の向上を支え、結果として就労へ繋げていく。</p> <p>障害者としてのカテゴリーで生きていくのか、多様性の一人として生きていくのかを自己決定できるほどの積み重ねができるような各関係機関の連携が求められる。</p> <p>質疑応答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育所等訪問支援時、支援者支援の難しさがある。 <p>⇒また相談したい、また会いたいと思ってもらえるような関係性を意識する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の対応、関わり方、伝え方について。 <p>⇒また相談したい伴走者として側にいてほしいポジションを意識する。</p> <p>(4) その他連絡</p> <p>今回の講義内容を YouTube にて後日配信 (R7.7.31 まで)</p>
<p>まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人間関係・社会性の誤学習に至るまでのプロセスや、マンツーマン対応時の注意点を学んだ。 ・社会モデルで過ごしていくことを意識した支援を行うには、各関係機関の連携が大切であると再確認できた。
<p>次回</p>	<p>9月2日(火) 15:30~17:30 支援ネットワーク連絡会と合同開催</p> <p>場所：伊那市防災コミュニティセンター多目的ホール</p>